

春岡村の伝説 <丸ヶ崎観音堂>

昭和の初めごろまで、このあたりの田畑は馬や人が耕していました。旧出戸橋の先にある丸ヶ崎観音堂では、かつて3月のお彼岸の中日の観音様で「馬寄せ」が行われ、赤や青のきれいな飾りをつけた農耕馬が農夫に引かれてやってきました。その年に来たお嫁さんも勢ぞろいしてお参りしました。飾り馬に乗ってくるお嫁さんもいました。露店がたくさん出て子供たちは小遣いを持って遊びに行きました。大人も子供もみんな行きました。とにかく何も楽しみがないから、隣の砂村や深作村の観音様も見に行きました。（春岡小学校百周年記念誌『春岡の歩み』より大正8年卒業生の話）

『思い出の春岡』の著者銭場佐一郎氏（明治34年生）は「2月15日は深作字原（春岡3丁目辺り）にあった観音様の日で、小学校時代まではかなり沢山の馬がおもいおもいの衣装で飾られて出たものだが、昭和7、8年頃からはその数も少なくなり、終戦後はその姿も見られなくなり、昔の俤（おもかげ）はどこへやらの感がする」と書いています。丸ヶ崎観音堂の道に面して文政2年（1819）造立の石仏馬頭観音塔が立っています。お堂の前の道が往還、つまり交通の要衝にあたる古道だったので、この馬頭観音塔は道祖神といって道行く人々の安全を守ってくれる神様でした。「いはつき・おうみや・はらいち・こうのす・志ゆうふ・きさい」（岩槻・大宮・原市・鴻巣・菖蒲・騎西）の道しるべが刻まれています。馬にまたがる馬頭観音はとても珍しいそうです。では、古道をたどってみましょう。丸ヶ崎観音堂から東へ坂を下り、見沼代用水東縁にかかる



旧出戸橋を渡ります。左手には見沼代用水を掘った時の土を盛った塚が見えます。ファミマの駐車場脇を県道東門前蓮田線沿いにコスモマンションの向かいの道を16号方面へ行きます。当地の字名は本村（ほんむら）といって江戸時代、丸ヶ崎村の中心で、かつて堀をめぐらせ立派な長屋門の名主の家がありました。16号を渡りネットヨタとホンダの間の道を進み、プロムナードを抜けると丸ヶ崎新田の田んぼの中の通称二間道路に出ます。田んぼの中を進み突き当りを左に行くと薬師堂と寅子伝説の子鱈社があり、その脇の小道を抜けると綾瀬川に突き当たります。綾瀬川は昭和初めの改修以前は、手前の民家のすぐ裏まで曲がりくねって流れていました。ここにかかっていた旧関橋を渡ると蓮田の馬込に至る、というのがかつての往還でした。川向うの家の前には往還のなごりで斜めに細い道が残っています。このように昔は往還沿いにお寺や神社、お堂があったので、これらをたどると昔の道が見えてくるんだよ、と村のおじさんが言っていました。ちなみに丸ヶ崎氷川神社は道一本隔てていますが、元は観音堂の前の古道まで参道が伸びていたそうです。多聞院も元々は本村にありました。（『丸ヶ崎の歴史と民俗』の元禄時代の古地図をみるとわかります）

（写真は丸ヶ崎観音堂の馬頭観音塔）

（平山由喜）